

科目名	産業組織論 Industrial Organization						
科目担当者	宮下 稔規 MIYASHITA Toshiki						
単位数	2	配当年次	3年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	<p>この授業は企業の販売戦略や他企業との競争関係について経済学的な枠組みで分析を行う。前半の内容は独占企業の行う利潤最大化から販売価格を変更することでより多くの利益を得られる価格差別について学習する。後半では2社以上の競争関係を学習し、他者製品との差別化戦略を考える。最後に企業が競争関係を維持せず、共謀して不当に利益を多くするカルテルの関与と、そのカルテルを防止する政策について学習する。</p> <p>産業組織論の分析を行うにあたり、数学を用いた分析を行うことがある。授業内でも数学の知識の復習を行うが微分の方法については既知であることが望ましい。</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 完全競争や独占における企業の戦略を説明できる。</li> <li>② 価格差別の種類とそれぞれの性質を説明できる。</li> <li>③ ゲーム理論を理解し、ナッシュ均衡の概念を説明できる。</li> <li>④ 複占市場における数量競争と価格競争について説明できる。</li> <li>⑤ 製品差別化について理解し、現実の企業の戦略を考察できる。</li> <li>⑥ カルテルに関する理論を理解し、リニエンシー制度について説明できる。</li> </ol>						
授業計画・内容	1	ガイダンス					
	2	マイクロ復習：需要曲線・費用関数・余利					
	3	マイクロ復習：独占企業の利潤最大化					
	4	完全価格差別					
	5	需要の価格弾力性と市場分割					
	6	二部料金、バンドル					
	7	復習と中間課題					
	8	ゲーム理論：ナッシュ均衡と動学ゲーム					
	9	クールノー競争、ベルトラン競争					
	10	製品差別化①：水平的な製品差別化					
	11	製品差別化②：垂直的な製品差別化					
	12	ゲーム理論：繰り返しゲーム					
	13	カルテル					
	14	リニエンシー制度					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	教科書の該当部分をよく読み込み、専門用語など独学で理解できなかった箇所をまとめておくこと。(毎週2時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	授業内で扱った内容や練習問題を中心に復習を行うこと。 特に練習問題に関しては自分一人で解くことができるように復習を行うこと。 (毎週2時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	中間課題 期末試験				30% 70%		①,② ②,③,④,⑤,⑥
成績評価基準	<p>秀：(評点90点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：(評点80点～89点) 到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：(評点70点～79点) 到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：(評点60点～69点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：(評点60点未満) 到達目標に達していない場合</p>						
教科書	特に指定しない。						
参考文献	<p>泉田成美・柳川隆 著『プラクティカル産業組織論』, 有斐閣アルマ</p> <p>花園誠 著『産業組織とビジネスの経済学』, 有斐閣ストゥディア</p>						
その他	マイクロ経済学I,IIや経済数学Iを履修していることが望ましい。また(同時に)ゲーム理論Iを履修しているとより深い理解へとつながる。						